

(防災課 戸田総括課長)

それでは定刻となりましたので、ただいまから第4回岩手県広域防災拠点アドバイザー会議を開催いたします。

本日進行します、県庁防災課総括課長の戸田でございます。よろしくお願いいたします。

会議を始める前に、配布資料の確認をさせていただきたいと思います。

次第の方に資料の名称記載してありますが、次第とそれから出席者名簿と資料ナンバー1から。資料ナンバー3-3まで5種類の資料になってございます。

不足等ありましたら、事務局にお知らせいただければと思います。よろしいでしょうか。

それでは本日の会議ですけれども、ボイスレコーダーで録音の上後日事務局が会議録を作成いたしまして県のホームページで公開する予定でございます。

会議録の公表の時期につきましては、配置計画の見直しが完了して、見直した配置計画公表したあとというふうに考えてございます。

アドバイザーの皆様にはあらかじめご承知おさくいただきますようお願いいたします。

では会議の開催に先立ち、復興防災部副部長の浅沼からご挨拶させていただきます。

(復興防災部 浅沼副部長)

皆さんこんにちは。復興防災副部長の浅沼でございます。4月より、現在の職についております。

今回はアドバイザー会議に参加させていただくのは初めて、というところでございます。どうぞよろしくお願いいたします。

アドバイザーの皆様方には日頃からご多忙のところ本日もご出席を賜り大変ありがとうございます。

このアドバイザー会議は、昨年度から、広域防災拠点の見直しに向けて、設置をさせていただき議論を始めたものでございますが、本年度末を目途といたしまして、配置計画の見直しを取りまとめるという予定にして進めさせていただいているものでございます。

昨年度は3回の会議をさせていただきまして、今年度行わせていただきます広域防災拠点活用可能性調査、その施設の内容ですとか、項目などについて、アドバイスご議論をいただいたところでございます。

今年度におきましては、いただきました意見をもとに、活用可能施設調査を実施しつつ、実際の配置計画の見直しなどを議論させていただきたいと、いうふうに考えておりました、本日を含めて、4回の開催を予定をさせていただいております。

本日の会議におきましては、現計画のまず、骨子となる構成の見直し部分で一部見直しをしたいという部分がございますので、その案と、実際の今年度の施設調査の実施について、一部先行調査を実施した部分につきまして、調査結果についてご確認とご意見を賜れば、というように考えてございます。

これから様々な観点で皆様からですね、アドバイスをいただきながら、より良い実効性のある配置計画に直していきたいと存じますのでどうぞ、様々な観点からの忌憚ないご意見をちょうだいできればというふうに、よろしくお願いいたします。今年度よろしくお願いいたします。

(防災課 戸田総括課長)

ここでアドバイザーに昨年度から異動がありましたのでご紹介をさせていただきたいと思います。

令和5年4月1日付けで、岩手県消防長会会長に就任されました米澤正幸様でございます。本日はオンラインでの出席でございます。米澤さま、よろしくお願いいたします。

以降は着座で進行させていただきたいと思います。では次第の2 協議事項に移りたいと思います。現計画の構成見直しに係る協議ということで、事務局から資料に基づきまして説明をさせていただきます。

(防災課 佐々木担当課長)

事務局を務めております、岩手県復興防災部防災課担当課長の佐々木と申します。今年度もよろしくお願いたします。

私の方からは資料ナンバー1の前半、それから資料ナンバー2を使いまして、ご説明させていただきます。着座にて失礼いたします。

議題の一つ目、現計画の構成見直し案についてということで、資料ナンバー1の1をご覧ください。まず現計画の構成見直し案ということで、資料ナンバー2の方が、見直しのイメージ、ドラフト的なものなんですけども、並行してご説明したいと思います。

まず(1)でございますが、想定災害への風水害の追加ということで、こちらは第1章でございます、資料ナンバー2のですね、1枚めくっていただきますと目次がございます。現行の配置計画の目次がこのような形で、第1章から第4章まで、構成がございます、想定災害につきましては、目次の第1章の3のところですね、想定する災害ということで、本文で言いますと2ページ目になります。

資料ナンバー2の2ページをご覧ください。3番の想定する災害、ここからですね、1ページから3ページにかけて、ということになりますが、朱書きしてる部分、これはあくまでイメージたたき台でございますけども、想定する災害としてですね、風水害を追加することに伴っての記述の変更というのが(1)でございます。

資料ナンバー1にお戻りいただきまして1の(2)でございますが、これはですね、岩手県広域防災拠点の運用マニュアル、それから岩手県災害備蓄指針、それから各広域防災拠点の施設と締結しております岩手県広域防災拠点施設の利用に関する協定、協定において定めるべき事項について検討の上、規定を整理したいというふうに考えてございます。

具体的にはですね、資料ナンバー2のまた目次の方ご覧いただきたいと思うんですが、こちらの現行の計画の部分ですね第3章の1、2の部分。本文のページで言いますと25ページから27ページ辺りまでですが、こちらにつきましてはですね、やや記述が実務的な細かいところまで規定してございますのでこちらは計画本体ではなく、マニュアルの方に、一段レベルを下げましてですねこちらの方に詳細を記載するという形にしたいと考えておりまして、そのためにこの第3章の1、2については、計画の方からは、除こうかなというふうに考えてございます。

それに伴いまして、現行の第3章の3から5の部分、本文のページで言いますと27ページ以降、36ページ辺りまでということになるんですが、こちらの方を繰り上げる形ですね、第2章に合体させるという形を考えてございます。

それから(3)でございますが、すでに取り組んでいる事項につきましては今後の調整を踏まえ、記述の整理を進めていきたいというふうに考えております。

簡単ですが、計画の構成見直し案につきましてのご説明は以上でございます。

(防災課 戸田総括課長)

それでは協議事項の(1)ですけども、ただいま説明した事務局の案につきましてご意見等、ご質問等ございますでしょうか。

どうぞ、お願いします。

(市長会 古舘様 (代理))

岩手県市長会から代理で出席しております古舘と申します。

最初にご説明いただいた想定災害に対して、風水害を追加するということの見直しについてなんですけれども、市町村で今策定している国土強靱化計画においても災害を想定した上で、いろいろ計画立てているわけなんですけれども、その際今岩手県内では少ないと思いましたが、北陸などでは雪の災害も想定した計画になっておまして。

集落の孤立とか、そういったものを考えられるのかなというふうには思いますけれども、おそらく県内ではあまり大きな雪災害はこれまでなかったようにも感じておりますところですが、雪害についても検討されたのかというところの質問でございます。以上です。

(防災課 佐々木担当課長)

はい。ありがとうございます。

今お話いただいたとおり、雪害につきましては太平洋側ということもございまして、今回の配置計画において特出しで雪害を 1 項目として追加するところまでは想定はしておりませんでしたけれども、何らかの形で、雪害も含めた他の災害についても、この配置計画の中に対応について盛り込める部分につきまして盛り込んでいきたいと考えておりますので、その辺りも含め、引き続きご指導ご助言いただければと思いますのでよろしくお願いします。

(防災課 戸田総括課長)

今入れてない理由としましては、おっしゃる通り、本県につきましては、雪害で大きな範囲で被害ということはありませんし、これからのことというわけでもありませんし、あまりちょっと本当に内陸山沿いだけですから、あっても、局地的といいますかそんなに複数の市町村に跨ってということもちょっと考えづらいということもありますので、今のところ、そういう考え方のもとに、雪害の部分についてはこの広域防災拠点という枠組みが広域的に災害がおよんだときに拠点を設けてっていう形なので、そこからは今回ちょっと見送ったところです。

ご意見ということで、受けとめてまいりたいと思います。

他にございますでしょうか。杉安先生お願いします。

(岩手県立大学 杉安様)

岩手県立大学の杉安でございます。

ちょうどこの風水害の事例として、台風 10 号及び令和元年台風 19 号を加えていただいた話でまずこれらの事例を取り扱っていただくことは大変重要なことというふうに思っています。

ちょっと確認をさせていただきたいんですけども、私はこの二つの災害が終了した時に岩手県じゃなかったという経緯もあるんですが、おそらくこの二つの災害で主に被害をこうむったエリアというのは、沿岸部の自治体が中心だったんじゃないかなという記憶がちょっとあるんですね。

それで、これと同程度の災害が内陸に通過した場合を想定するって言ったようなケースとかであればいいかなというふうに思うんですけども、沿岸部だけではなくて県南県央とか、エリアを分けて検討していくって話があったというふうに思うんですが、例えばもしそういう県南より県のエリアってことも想定まで考えてあった場合には、これは実はこの台風 10 号と台風 19 号ももちろん大事だと思ってるんですけども、いわゆるカスリン台風・アイオン台風って言ったような内陸に災害をもたらした台風も

想定していただいた方がいいのではないかなという気がするんですが、この部分いかがでしょうかという質問でございます。以上です。

(防災課 佐々木担当課長)

はい。ありがとうございます。

想定する災害に今回追加する典型例として、平成 28 年の台風第 10 号、令和元年台風第 10 号を想定災害として記載させていただいたわけなんですけども、風水害といった場合には台風以外の大雨ですとか、線状降水帯といったものもございまして、どこまで検討内容をですね反映できるかっていうのはあると思うんですけども、この二つの台風事例以外についてもですね、対応イメージとしてですね、盛り込むことができるといふふうに考えております。ありがとうございます。

(防災課 戸田総括課長)

他にご意見、ご質問ある方いらっしゃいますでしょうか。

よろしく願います。

(岩手大学 小笠原アドバイザー)

想定する災害なんですけど、被害の規模で、上げているのか、何か数字的な指標が本来あって、それを超えているから、想定する災害に挙げてますよっていうふうに、本来するべきで、風水害において、近年目立った災害ってということで、台風第 10 号と台風第 19 号が上がってるんですけど、台風第 19 号がここで想定する大規模災害に相当するのか、というところが、疑問なんです。多分、一般の人たちが見たとき、これ何を基準に、想定する災害と言ってるのか。

カスリンイオンがなぜ入ってこないのかってというのは当然出てくるし、何かやっぱり、過去何、何、何十年、内の大規模災害とか、何か基準を設けられた方が、リストとしてはいいのかなという気がするんで、国の方が予想している想定災害についてはこれはこれで挙げておけばいいと思うが、明確な指標があった方が説明しやすいと思います。

(防災課 佐々木担当課長)

はい。ありがとうございます。

今先生おっしゃられたような形で何かしらのですね、基準っていうものを計画の中に示すことができるかどうかそこも含めて、検討を進めていきたいと思っておりますので、よろしく願います。ありがとうございます。

(防災課 戸田総括課長)

他に、ご意見、ご質問等ある方いらっしゃいますでしょうか。

よろしいですか。はい。

よろしければただいまアドバイザーの方からいただいたご意見なども含めまして、改めて検討して成案を作りたいと思っておりますので、よろしく願いたいと思っております。

では次にですね、議題の (2) ですね、エリア的に広域防災拠点活用可能施設調査を実施に係る協議と、ということで、また事務局の方からですね、説明資料に基づきまして、説明をさせていただきます。

(防災課 高橋主任) (~18:47)

事務局の防災課の高橋です。どうぞよろしくお願いいたします。こちら私の方から着座にて説明させていただきます。

それでは資料ナンバーは 2 の (1) の部分から説明いたします。活用可能施設調査ということで、(1)

の第3回のアドバイザー会議までの実績を踏まえて、調整させていただきましたカルテに沿ってですね、一部の施設について、先行してですね、調査を実施しまして、カルテを作成してみましたので、ここでその仕上がりのイメージということで見ていただいて、不足がないとかですね、そういった視点で見ていただきたいなと思って、本日ですね、3施設分、出してみましたので、ご意見ありましたらいただければと思っております。

調査を実施した施設ですけれども、矢巾町の県の消防学校、花巻空港、花巻空港は花巻市なんですけど県が管理してる部分と、市が管理してる部分があるので、県が管理してる部分に関して調査を実施しました。次に日居城野運動公園ということで、こちらは市営の施設にはなるんですけども、花巻市の施設になりますこの三つを先行してやってみましたので、ご覧いただければと思います。

ここでまず(2)の部分を見ていただく前に説明させていただければと思うんですけど、調査実施にあたっての留意点ということで実際私がこの3施設に行っただけですね、感じたことも含めまして、こういった形で進めていこうという考え方を設定しましたので、ご説明させていただきたいと思っております。

(2)の部分ですけれども、構造ですね鉄骨ですとか、何階建てとかそういったところで調査しようと思っただけで、前回の会議もあったので行ってみたいんですけどやっぱり施設内における利用が想定される箇所を特定しないと議論が進まないというところがありましたので、こちらですね、前回、平成25年度の調査では、施設全体として2枚ぐらいにまとめているんですけども、やはりより明確な資料にしていきたいというところもありましたので、まず施設全体に関わる情報をまとめる総括表と、利用想定箇所ごとに整備する個表ということで、各施設ごとに2段階で資料を作っていきたいというところを進めてみました。

個表を作成していくにあたっては、図面をですね、この後見ていただきますけれども、載せておまして、そこに利用イメージですとか、利用時の想定されるレイアウトといったところを記載していこうと考えております。

次に施設最寄りの給油所の確認ということで、こちらは消防学校と意見交換する時にですねこの給油所も、あるといいんじゃないかという話をいただきましたので項目に入れてみたんですけども、こちら給油所を拾っていくときに、災害時にその緊急車両への優先給油を行うことになっている中核サービスステーションという、制度がありまして、県で言うと商工労働観光部が所管しているというか制度なんですけれども、こちらに該当する給油所をピックアップしていきたいと考えております。

次に施設の耐震化の確認ですが、こちらはですね、実際行って見て、どうしようかと思った部分もあったんですけども、前回調査の経緯も、改めてですね、よく確認しまして、建築基準法の耐震基準の値改正がですね1981年6月に施行されているということ踏まえまして、1982年以降に整備された建物については新耐震基準施行ということで、一括して取り扱うということにしたいと思っております。

そして1981年以前に整備された建物については、深掘りしてというか、耐震診断をしているかとかですね、実施している場合は今日消防学校のところに出てきますけど、I s値という耐震診断基準とかがあるので、そういったところの結果ですとか、あと今後耐震改修をする予定があればですね、そういうところを聞き取りによって整理していくというような扱いで進めていきたいと思っております。

次に最寄インターまでの主要ルート代替ルート、いうところを設定するんですけど、こちら前回調査に準じているところなんですけども、岩手県の地域防災計画上ですね、優先的に、交通の確保を図ることとされている緊急輸送道路ということでこれはまた、庁内で言うと県土整備部が所管してる制度なんですけど

ども、こちらを通るルートを採用していくこれはもう前回、に準じた措置になります。

ここからですね、個別のカルテの説明に移ります。資料ナンバー3の1消防学校のカルテをお開きください。よろしいでしょうか。では説明進めさせていただきます。

まず消防学校、左上に表記しておりますが総括表ということでこちらが全体に関わる帳票になります。施設の名称ですとか想定される利用箇所とか用途は7番の図面のところにゆだねているんですが、あとですねここで説明しておきたいのは個表の通りと書いてあるところが、いくつかありますけどもこれはさっきの総括表個表対応関係というところで、個表にゆだねている項目というのを整理している。逆に個表に行くと総括表の通りになっているところがあるというような対応関係で整理しております。

災害危険性等につきましてはいずれの施設も総括表の中で整理するというので、ここはもう本機械的にですね、今既存で資料があるので、想定 of 災害について整理していくと。

一方で施設の耐震化については個表にゆだねられていたり、施設の耐浪化は今回沿岸はやっていないので、今後個表のところでは整理していくことになるかなと思います。降雪時の状況につきましては、総括表で整理できるところは総括表で整理していきたいと思います。

3番設備の状況につきましても、個表にゆだねているところも多いですし、写真を見ればわかるかなというところは、総括表の中の写真で整理していく、いうところなんです。4番の施設の周辺状況につきましても、総括表で整理するようにちょっと黄色のところですね、距離とか、中核サービスステーションのリストがまだちょっと手元にないので、まだ調べきれていないところをですね、黄色で着色していますけども、そういったところは、インターネットによるその距離の継続ですとか、或いは、実測できれば実測とかですね、調べていきたいと思っております。5番の体制等につきましても総括表の中で、整理していきたいと思っております。

では2枚目に参ります。

6の①の施設位置図ということで、外部の方ですとかに見ていただくことを想定して大体の県内ですね、位置ということで見ていただくために、これ簡単な表示ですけども、赤丸で場所を表示するということをしています。

では次に行きまして、周辺の状況ということで、航空写真をもとに、これ本当にまだ作業途中なんですけども、どのように施設に至るのかとかですね、黄色い矢印が、県庁方向からこの施設に至るにはどういふふうにかかっていう、主に想定されるルート、ということでして、赤い矢印はこれですね、矢印のインターの方にスマートインターですけども至るルートということで記載しております、この中にですね最寄りの給油所ですとか、最寄のインターとかですね、その辺りをプロットしていくとか、そういった仕上がりにしていきたいなと思っております。

もう1枚進みまして、こちらが7番の図面ということで、施設全体を俯瞰するようなものを載せまして、その施設の中の設備というか建物をどのように使っていくというような想定を記載しております。消防学校はたまたまという部分もあるので、結構盛りだくさんです。救急訓練棟が臨時SCUの設置を想定していたりですとか、あとヘリポートとかですね、物資の保管とか、そのようなことを記載して、この中でですね個表が必要だろうと思われる箇所を個表の方で整理するというので、調整しております。

進みまして、施設内及び周辺の状況ということで、総括表の方では、全体に関わるような情報に関する、一部個表と重複する写真もありますけども、写真を載せて、整理しておきたいと思っておりますし、最後の

ページに参りますが、ここでですね施設利用にあたって留意しておかなければならないということで整理して、いきたいと思います。頭の中で考えているその留意点をまず3点ですね、書き出しておりますここにどんどん追記していこうと思っています。

次個表に参りまして、防災資機材倉庫の方、個別シート。ちょっと事務所の方はですねまだ写真とか入手できていないので、防災資機材倉庫の方の個表で説明させていただきたいと思います。

この防災資機材倉庫につきましては、総括表の先ほど利用想定箇所の中に記載をさせていただいたんですけども、物資を普段置いている箇所になりまして、こちらですね整備時期ですとか、すいませんちょっと調べ切れていないのでまだ記載をしていないんですけども、その辺りを個表ということで整理していきたいと思っています。ここで総括表の通りと記載があるところは総括表にゆだねて対応させていくということです。

この防災資機材倉庫の図面ですね、適当な図面がなかったので、これはエクセルで手作業していますけれども、どこに何を置いてあるかっていうことを、整理していますし、どのように物資を運び出すかというようなことを、この図面の中で整理していきたいと思っています。そうすればその関係機関の方が見たときもこういうふうに運用するんだというような、少なくともその想定を共有できるということで考えています。

ちなみに消防学校のこの物資の倉庫は今年度の総合防災訓練でも使う予定なので、そのあたりの実績も踏まえて、整理していきたいと思っています。写真をご覧くださいと、これが倉庫の状況ですね、より総括表にある写真もありますがより詳細に、整理しております。外観ですとかなんかがこうなっているところを補助の中で整理をしていきたいと思っています。

次に、花巻空港の方をご覧ください。

花巻空港につきましては、本当に県管理部分と市管理部分だけじゃなくて民間が持っている部分とかですね、国が持っているとかがいろいろ入り乱れているんですけども、いずれ今回はその県管理部分に絞って調査をしました。構造としては、消防学校と同じように総括証拠表で構成しています。

総括表ちょっと右の方にスクロールしていただくと、先ほどと同じような施設の位置図、ですとか、周辺の状況がありますし、施設全体を俯瞰した上での利用が想定される箇所の記載をしています。写真も同じように、全体に関わるような、写真を載せた上でですね、最終ページでは、施設利用にあたって留意すべきで、ということで記載をしています。

個票の除雪車庫のところなんですけども、花巻空港につきましては、あの通りというかすごく広いので、実は建物ごとに住所の表示がちょっと違ったりする部分もあるので、個表の中で住所を整理しているというような特性もあります。

この除雪車庫については、もう構造とかもわかっています、鉄骨一部木造ですとか建物面積というところが記載されているのですべての施設についてこのように記載するというようなイメージで見ただけであればと思います。

2番の(3)のところなんですけども、施設の耐震化については、2006年の整備ということで、先ほどの総括説明資料に沿って新耐震基準施行とだけ記載するという整理をしていますし、3番の電源の箇所ですけども電源の箇所数ですとか、例えばこの除雪車両については、非常用電源がないというようなところがあるので、ここは施設利用にあたってですね、把握しておかなければならないことかなと思いますし。

一方で施設によっては、非常用電源があるのであれば、どこのコンセントが非常用電源に繋がっている

のかというようなところを整理するというような予定としております。

この除雪の車庫につきましては、物資の荷さばきを行う想定としておりますためにどのような車両がどのような動線を描くかというようなことですか、普段から物資を置いてるわけではなくてこの除雪機が置いてある車庫なので、有事には除雪機をすべて出して、東日本大震災の時もそうでしたが、物資をどのように置くことを想定していて、車両をどのように通すかを想定しているというような表でまとめたいと思っています。

ちょっとまだイメージなので、整理しきれていないですけども、そのような方向性でここにこういう物資を置くと車両をこう通すというようなことを書き込みたいと思っています。

右側写真のところは、普段の様子。この右上の写真なんかですと、除雪機が普段止まっている様子がありますが、こちらは有事にはすべて外に出すというようなことを想定しています。

最後に、日居城野運動公園に参ります。

つくりは今までと同じでして、総括表個表で構成しています。日居城野運動公園につきましては、野球場ですとか陸上競技場ですとか、芝生の部分ですとか、すごくたくさん使えそうな箇所がありますので、どこをどういうふうにするかというのを書き込んで、例えばその芝生の部分とかは特に個表とかを作らなくても、写真を見ればわかるかなという部分もありますので、個表とか作る想定はありませんし、一方でその建物とかですね、使う想定があるところ、日居城野運動公園で言う陸上競技はヘリをおろしたりする想定ですので、こういった施設利用にあたっての留意事項がありそうなところは個票として整理していきたいと思っています。

陸上競技場はこのような形でちょっとまだ情報が埋めきれていない部分もありますけども、このような形で陸上競技場についても個表を作成して周辺の写真を貼り付けるというような、方向で作業していきたいと思います。

施設の調査につきましては今現在指定されている施設の調査を県が直営でやることになっているので、つまり私なり、そのほかの担当者がやっていくことになるんですけど、このような方向性で調査を進めて参りたいと思っています。

ご意見ありましたらお気づきの点等ありましたらいただければと思います。説明は以上でございます。

(防災課 戸田総括課長)

はい。調査につきまして、前回までのアドバイザー会議でのアドバイザーの方々のご意見を踏まえて作りまして、それをもとに、実際に3ヶ所ですね、調査をしてみても、こんな形でちょっと作ってみたというところがございます説明させていただきましたけども、この中身につきまして、何か不足とかですね、こういう項目加えた方がいいとか、あとはこういうふう整理したほうがいいとかですねそういった調査票についてのご意見がございましたら、いただければというふうに思います。

(岩手県トラック協会 佐々木アドバイザー)

トラック協会の佐々木です。経験的な部分も含めてお話したいと思っています。

消防学校の写真がありますけど。倉庫ラックになってるんですね。ラックの上は手作業では取れません。はしごがあってもちょっと難しい。頑張つてよくあげたなと私思つて見てましたけど。降ろすことを考えればちょっとその高さのイメージと、ものをおかなければならない部分はわかるにしても、出し入れするイメージがちょっと不足かなつていう。そこはちょっと検討だと思っています。それが一つ。

あとヘリポートの関係で言いましたけど。グランドヘリポートは、土面のところに置くのか。というの



は、ヘリコプターを置いたときに、救急車にしろトラックにしろ入っていかなくや、そうすると土のグラウンドだと。土を駄目にしてしまうことも含めて、できればコンクリっていか固いところにヘリポートを作った方が良いのではないか。

万が一の場合の万が一はわかりますけど。土だと車が入ってくると大変。トラックの部分のアンカーの方であればいいけど。中の完全に芝生のとこっていうと、車は入れたくないと思うし。トラックも入れたくありません。もしかすればぬかるんでると大変な話になるので、そういった状況を踏まえれば、できるだけ固いところにヘリポートっていうイメージがあった方が、人に限らず物を出すにしても、というふうに、花巻のこの球場のとこ。グラウンドにヘリポートが想定されている部分、私なりに思うところがありましたので、その点、個表なり何なりに書き込むことがどうなのかっていうのもありますけど。全体の物の動きで考えればその辺は、含めて検討した方がいいかなと思いました。

よろしく願います。以上です。

(防災課 高橋主任)

ありがとうございます。

高橋の方から回答させていただき、消防学校はおっしゃる通りでして、毎年物資の入れ替えあるんですけども、特に2段目以降はですね、非常に四苦八苦しながら、やっているのが実情で、なかなか荷物出し入れするには、難しい構造をしているというのは、本当にその通りだなと思っているので、個表の中でそれを記載していくのかどうかというところあるんですけど、いずれその辺りも、今回の見直しの中でですね、何らか整理をしていきたいなと思っています。ありがとうございます。

2点目ですねヘリポートのところですけども、この辺りは何ていうか、ぜひヘリを動かすプロというか、自衛隊さんですとか、消防さんのところで、意見をいただきたいと思っております、ちょっと、とりあえず今、日居城野運動公園のこの陸上競技場につきましては芝が敷いてあるんですけども、一応県の地域防災計画上、ヘリポートという位置付けにはなっている、そういうところはあって、今現状カルテはこのようなしてるんですけども、実際それがその利用に耐えうるかというかですね、そのあたりはヘリを普段から動かして皆さんにお話をお聞きしたいなと思えますし、ちなみに先日ですねこの後、調査、本調査に入る遠野なんかも下見に行ってるんですけども、遠野も、東日本大震災の時は土ぼこりのところに、ヘリを降ろしたというような消防周りの敷地なんか見てですね、ただ今はそこも芝が敷かれていたりして、まさにさっき申し上げたようにその傷をつけたときに、どうするのかとかですね、その辺りちょっと悩ましいなと思いつながり見ていたので、やっぱりコンクリート面とかにおろして、特にそういう補償とかそういう話に発展しないような箇所ってというのが望ましいだろうなと思っているので、ぜひそのあたりは運用のプロの視点でですね、ご意見いただければなと思っております。

(陸上自衛隊 高瀬アドバイザー (代理出席))

ご説明ありがとうございます。

ヘリポートだけの話とすれば、コンクリートが望ましいと思います。

今後実際見てみないとっていうのがあるので、要望としてはもし調査の時に一緒に連れていっていただければ、一番いいかなというのが意見としてあります。あと、ヘリポート以外の運用のところもあるからですね、この場合この場でいろいろあると思うんですが優先順位だったり、あと想定別だったりとかいろいろ思うんですけど、そういった視点も必要なのかなと。まず、その調査の時に声掛けいただければと思います。以上です。

(防災課 高橋主任)

ありがとうございます。

そうですね合同調査については、去年も話題になっていたのを見ていただいた方が、確実に早いと思うんですね、ぜひ。はい。そういったお話もご相談できれば、思います。

(防災課 戸田総括課長)

他に、とですね、特に今回これ入れさせていただいてるのは、昨年度までは様式として皆様にお示しさせていただいて、ご意見をいただいた上で固めたんですけども実際それを踏まえて、現地に行ってみて、記入してみた関係で、よりイメージが湧きやすいかなと思いますので、ここでいただいたご意見で、この案を確定させて、既存の施設につきましては、県で直営でいきますし、新しい沿岸とかあと県南部のところについては業者に委託してこの調査票でもって調査をして欲しいというような形で出かけますので、例えば、この施設の運用の仕方がどうかというよりは、こういうふうに書いてもらわないとわかりづらいとか、こういう項目があった方が、今後、この施設が適当かどうか検討するのに、こういう情報も必要、やっぱり必要だなとかですねそういったところをメインにご意見いただければ大変助かるんですけども。

田村先生よろしくお願ひします。

(新潟大学 田村アドバイザー)

はい。田村です。

おまとめいただいてまたご説明いただいてなんかすごく良くなってきて、わかりやすく整理もされてるし、随分何ですかね機能も整理されてきてるのかなというふうに思います。

あとはどう整えていくかなというところなんですけど、何かこう、いろんなところからなんですかね防災拠点に関する資料とか、報告書とか出てるんですけどそのあたりほどのぐらい参考になったでしょうかというところが、一つ目の質問となります。

二つ目はいろんなものを見ると、例えば内閣府で示されてるようなものであると採用になるかどうかは、ともかくとしてなんですけど、今ご説明にもしかしたら加わっているのかもしれないんですけど、被災地のこうなんすかね交通アクセスみたいなものとか道路幅であったり普段平時、道路幅であったり、それから何台ぐらいの車がそこにつけられるのかっていうような、アクセス性みたいなことについては、何か検討されてるのかなというようなところ。

それからあと、荷さばきだとか、オープンスペースだとかっていうのが荷さばきに使えるのかなというふうに思うんですけど、そういったところは検討していただいているってお話でしたので、それは良いのかなと思いますので今内閣府の広域防災拠点の中で、今機能が書き連ねてある報告書があるんですけど、その中で言及が感じられなかったのが、拠点へのアクセス性っていうところでしょうかというところなんです。

あともう1点国交省から出てる防災拠点の、あったとしてもそれが災害時に使えないとどうしようもないので、防災拠点の事業継続ですかね、建物として機能しておくための対策についても、考えてあるものがあるれば、記載しておきましょうっていうのが書かれていて、それは耐震性揺れ対策がどのぐらいいされてるものなのかなど特別に免震とかになってるようなものがあるのか、それから浸水対策であったり、消火施設はほぼほぼ備えられてるかなというふうに思うんですが、今の揺れ対策や消火対策、今までの建物でしたら、標準装備は標準装備なんですけど、何かこう建物の一部、付属建物とかについて



(新潟大学 田村アドバイザー)

わかりました。了解です。

(防災課 高橋主任)

ちょっと余談なんですけど物資の担当しているのでもいろいろ、各地震にこう対応したその物資の計画とかですね、いろいろ内閣府からぼんぼん行ってくるものとかを見ているんですけども。私広域防災拠点という観点でちょっと見切れていない部分も、あるかなというような気もするので、ぜひそういった参照すると参考になりそうな情報があったらですね、各アドバイザーの皆様からも情報をいただくとありがたいです。ちょっと何ていうか、見落としがあるかもしれないので、どうしてもこのカルテの作成の方に注力しており、狭い目線になってるところもあるかもしれませんのでぜひそこはお願いできればと思います。

地震津波の方ですけども、趣旨をもう一度お願いします。

(新潟大学 田村アドバイザー)

災害が起こったときに、いわゆる被害が大きくならないような工夫がされてる施設なのかどうなのかってところですかね。

国交省の資料を見ていただけると、私が何を言ってるのかなってというのはわかっているかなと思いますのでもちろん最新の施設ばかりではないということは理解もしてるんですけど、国がそろえてるのが一通りカルテとしてあると、お互いに参考にしやすいのかなと思います。

もう1点は国の防災拠点について何かご存知のことはあるでしょうかという質問です。

(防災課 戸田総括課長)

はい。国の方の防災拠点の関係だったんですけども、一応県の災対本部の方には人を派遣して、そこでやるってところまではあるんですけども、また別途何か拠点を、進出拠点をここで設けてっていうのは今のところ岩手の方では、聞いてないですね。

(新潟大学 田村アドバイザー)

あるとその辺はアピールしていかなきゃいけないのかなってところでしょうか。ありがとうございます。

その辺りも南海トラフ並みのものが、北海道、青森、岩手で起こるっていう話に今なっているのかなって認識ですのでその辺りはまた、他の県とも心合わせて設置のアピールをしていかなければならないかなというふうに感じました。直接このことは関係ないんですけど、波及効果として申し述べました。私からは以上ですありがとうございました。

(防災課 戸田総括課長)

他にご意見ご質問等ある方いらっしゃいますでしょうか。はい。

(岩手大学 小笠原アドバイザー)

まず、確認させて欲しいんですけど資料のナンバー2の21ページあたりに、表が、まとめられてまして、いろいろ機能に対してマルがふっておられて、これに対してのカルテを全部作成するという事なんでしょうか。

(防災課 高橋主任)

そうです。はい。高橋から回答します。

カルテを作成して、この表を更新するということになります。これが現行の表になっているので、現時

点での表現できるので、次回なり、その次あたりで更新をかけるというような想定でございます。

(岩手大学 小笠原アドバイザー)

わかりました。

(防災課 戸田総括課長)

プラス沿岸等、県内で新しく追加するものについて、この表に持ってくるということです。

(岩手大学 小笠原アドバイザー)

かなりのボリュームになるのかなって感じがしてますんで。

カルテって一体何だろうって、ずっと今思ってた。多分、この施設を本当に使われる方達がパッと見たときに、ぱっと情報が読み取れないと意味がないんだろうなってというのが、率直な感想でして。私はそこに直接かかわらないので、何が重要で何が重要じゃないかっていうことが、答えられないんですが、やっぱりそこは各委員の専門的観点からしっかりと、まとめられた方がいいのかなってところなんですけれど。

ただ、施設によって、丸印がばらついてますよね。それを統一のカルテにしてしまうこと自体も、なかなか大変だなあというのが正直なところなんです。同じカルテの表にしてしまうと、全部埋めるのか、何だろう、空白もあるようなカルテになってしまうのか。うん。だから、いや私も何かアイデアがあるわけじゃないんですけど、すごくこれって、うん。

なんか、多分完成したらすごい満足感があるんだと思うんですよね。情報がたくさんあって。ただいざっていうときに本当に、あとですね、自衛隊の方たちがこれを見て使えるのかとかトラック協会の方たちがパッと見て使えるのかってところを、うん。やはりもう少しですね。意見をいただいて、慎重に作られた方がいいのかなって感じがします。

(防災課 戸田総括課長)

こちらのカルテはいざというときに使うっていう時もありますけど、まずは広域防災拠点として適切かどうかというのを判断するための材料で一つ使いますし、そのあと、いざ大きな災害時に使いたってなった時にも、図面とかですねそういう地図とかがあれば、そういう時にもパッと提供して使いやすくなっているところはあるかなと思うんで一義的には拠点として適切かどうかを判断するための材料としての情報収集なんですけども、確かにおっしゃる通りカルテは、実際に使っていただくときに見ていただくってことも考えているので、おっしゃられたような趣旨のところも踏まえて変えていくところを改良していきたいと思います。

(岩手大学 小笠原アドバイザー)

わかりました。カルテの使い方が二通りあるっていうことですね。

対策本部として、使えるか使えないかの判断材料としての管理としての役割は、統一感があつたものがないと思うのはその通りだと思いますね。それをしっかりとまとめられたらいいのかなって感じがします。

あとでこのカルテの情報に候補地として、3ヶ所ぐらいありますよ、それを、対応される方に判断していただくっていう、進め方になるんですね、実際の形としては、災害の時には。

(防災課 戸田総括課長)

一応拠点として県として指定をして、実際災害が起こってですね、ここで指定した拠点をこういう機能として使いましょうってなった時に、例えばその場所のイメージとか、図面とか、建物配置とかどうなっ

てるかっていうのを事前にイメージしていただくために、このカルテの写真の部分だったり、図面だったりとかを使ってっていうのを考えてますけども。

その細かい使い勝手のところは、決めた後、さらに深掘りしてやるかってのはちょっと今後の検討かなというふうに思います。

(岩手大学 小笠原アドバイザー)

多分、現地視察されて、全体の総括表プラス個表が、重要だと思われて作られたんだと思うんですけど、細かくすればするほど、読み手側が、判断が難しくなるのかなという気がします。その辺りちょっと気をつけていただきたい。

(防災課 戸田総括課長)

はい。ありがとうございます。他にご質問、ご意見等ある方いらっしゃいますでしょうか。はい。

(トラック協会 佐々木アドバイザー)

12年前にアピオを選んだときの判断がまたよみがえるんだと思うんですけど。

その中の一つとしてっていうか、あの時はもうアピオしかなかったんで、アピオを選んだと。今後はいろんな地域に該当するものがあって、選択するというそういった意味では、今先生おっしゃったように、現場に行けば、これ見てる暇ない。事前にある程度その施設はどういうものなのっていうの知っていくぐらいのイメージだと思うんで。

あとはさっきおっしゃっていただいたように、車両の出入りの判断っていうことで、意見という形で、その場では流れていくんだとますので、当然それは自衛隊さんも同じ立場になると。もう現場で学ぶしかない。いざとなれば。そのための事前の知識っていうかな、そういうことでの必要性は、とらえ方としてあるんだろうなと思います。

道路の話もさっきありましたけど、せっかくなんでもう一つだけ、この地図の部分で、さっき高橋さんの方からは一方通行的なイメージだったけど、もらう側で見る地図なのか、それとも出すときに使うのかっていうのは、両方含めてとらえておかないと、他県の支援をいただく方々にも見ていただくためには、このルートで入ってきてください。今度逆に拠点として使った場合は、このルートで向かってください。わかるようにした方が、いいかなと思います。

地元でいえばどこを通過してところがいいかっていうのはわかってるからいいんだけど、客観的な目で見ると人たちからすれば、これだと県庁の方からのイメージしかないから仙台からいったらどうするの、秋田から来たらどうすんのっていう部分が見えないので、そういった部分を含めれば、整理の仕方として、インターと言っても、10年前だって高速使えなかったわけだから。一時期。そういう意味では、すべてインターっていうふうに考えなくてもいいんだと思うんで。この地図さえあればインターはそこでわかるから。入る側と出る側のイメージも含めて整理しておけばいいのかな。よろしく。

(防災課 高橋主任)

ありがとうございます。そうですね、確かに今のルート設定は出す視点というか、いうところで書いていたんですけど確かに来ることもあるわけで、そこは追記していきたいなと思いましたし、ちょっと今いただいたようなお話踏まえて、また考えたいなと思うんですけど、やはり普段からこのカルテっていうのを共有をして、見ていただいております、現地のことを関係機関の方に知っておいていただくというような、アプローチというか、そういうことが、重要なんだろうなと思いましたので、その辺りちょっと頭を整理してですね、考えたいなと思いました。以上です。

(防災課 戸田総括課長)

他にご意見ご質問ありますでしょうか。

(陸上自衛隊 高瀬アドバイザー (代理出席))

全体的なこの会議の流れのところで今のカルテのところですね、一つは、変えたんですけどちょっと、私もう、ちょっと確認で、自衛隊の方でも計画を作ってます、それとなるべく整合させて運用のところをつなげたいというのがあります。

ちょっと私の理解がちょっと間違っていればいいんですけど、最終的に私の方で知りたいのは、拠点の中の、例えばこのリスト化されてる 21 ページのリストの中の、この中から選べるというか、候補地というか、そういう理解で大丈夫でしょうか。まず一点。

(防災課 高橋主任)

そうですね施設の調査をある程度 9 月ぐらいまで進めまして、この表の見直し案みたいなものを作って、どこの施設にはこういう機能を付与するというような表を、作るということを進めていくので、有事にはこのリストの中から選んでいただくというようなことが想定されますし、というところですね。

(陸上自衛隊 高瀬アドバイザー (代理出席))

最終的には令和 6 年の 1 月が最終とこだと思うんですけど、その中でこのベースキャンプだとか基地展開、マルついてるところが候補地というところ。

(防災課 高橋主任)

有事に運用するであろう候補地として、計画の中で整理されることになります。

(陸上自衛隊 高瀬アドバイザー (代理出席))

部隊の規模っていうのはいろいろあって、運用されるところもある程度決まっておりますので。そこをお互い、情報共有させていただければと思います。

(防災課 高橋主任)

そうですね、絞っていくっていうのも、やはり必要だと思っているので、そのスペックっていうところをカルテの中で整理した上でですね。それと自衛隊がその計画というのはいつぐらいにできるんでしょうか。

(陸上自衛隊 高瀬アドバイザー (代理出席))

早ければ、9 月ぐらい。年 1 回見直してます。

(防災課 高橋主任)

その辺りとも整合性がとれるように、話をいろいろしていければと思います。

(防災課 戸田総括課長)

他に、ご質問ご意見ある方いらっしゃいますでしょうか。

(新潟大学 田村アドバイザー)

田村からちょっと補足というか確認なんですけどよろしいでしょうか。

今の議論すごく皆様の議論意味のあることだなぁというふうには思っております。ただ何ですかね。ベースとなる基礎データとしてのカルテっていうものと、それからそれを今度各組織が、それを加工して使っていただくためにどうやってお渡しするのかっていうこと、それから理想なのは各組織が例えば自衛隊の方が今お話いただいた自衛隊ではこういうふうを活用してこういうふうを考えてるんだってこと

が事前に共有できればいいですし、災害が起こってから、自衛隊のように事前計画がすべてうまくなされているわけでもないでしょうから、そういった後からやってくる人たちのためにもわかりやすくってというお話があったんですけど。

それは別途、わかりやすい資料を作る必要があるのであれば、これに沿う形で作るべきであって、それを簡単にしてしまうっていうことの議論ではないという理解でいるんですけど。よろしかったですよね。カルテはカルテで、しっかりと作っていくもちろんその中で、もうちょっとこういうふうにした方が見やすいんじゃないかっていうご提案は、受けるにしろこれまでの議論とか、東日本の後、これをデータ化して、皆で共有してきた経緯もあり、これは意味があることだと思ってそれ以降大きな災害は起こってないわけですけど、信じてやってるわけですので、それは別途考えるようなイメージでよかったですか。県の方から何かこう、それもやりますっていうふうに聞こえてしまったので、ちょっと心配になったので、口を挟みます。以上です。

(防災課 戸田総括課長)

はい。ありがとうございます。

先生おっしゃる通り、基本的なデータとしてきちっと整理するっていうのが目的で広域防災拠点として、どんな使い方をするのか、どうかっていうのをチェックするためのカルテなので、ここに全部何でもかんでもですね、提供するための情報を全部何でもかんでも盛り込んでやるということじゃなくてそれはそれでまた別途ですね、災害どこで災害が起こって、どういう被害の規模かによってもおそらく提供しなきゃいけない情報って変わってくると思うので、そこはその時に別途例えばこの、ベースになる情報にさらに書き加えることによって使えるようにするとかです。そういった工夫はできるかなと思うんで、今先生おっしゃられた通りでそういったものはまた別途、ある程度加工するなりしてですね、作っていくっていうことで考えてるということで、ご理解いただければというふうに思います。

(消防長会 米澤アドバイザー)

米澤と申しますよろしくお願ひします。

今いろいろカルテとかそういうお話出まして、広域防災拠点の場所というところでですね、ありましたけれども。1回目の時もお話したんですが、県の方では、緊急消防援助隊の受援計画っていうものを作っておりまして、その中の資料として、陸上部隊の進出拠点の候補地とかですね。別表で結構多くの場所を載せているんですけども。そういうものの拠点っていう位置付けと、本計画の位置付けがどういうふうに関わってくるか、ちゃんと整理されてるのかなというところをちょっとお聞きしたいんですけど。

(防災課 高橋主任)

ありがとうございます。

その辺り消防さんとお話しなきゃならないかなと思っていたところでして、やろうとしてることは同じだと思うので、その緊急消防援助隊が、入ろうとしてる拠点。その広域防災拠点というのは、可能なら例えば、うまく共存できるような構造になっている必要があると思いますので、そこは先ほど自衛隊の計画の話じゃないんですけども。すり合わせをしなければならぬ点として考えております。

(消防長会 米澤アドバイザー)

はい、わかりました。ヘリポートについてもですね、消防の活動する拠点の一部だと思うんですけども。カルテでヘリポートとして指定してるところがヘリの活動の拠点として使うヘリポートなのか、そこら辺もはっきりしての方がいいのかなというふうには感じてましたので、よろしくお願ひいたします。



(防災課 戸田総括課長)

それでは、これまでアドバイザーの皆様からですね、当初いたしましたご意見等につきまして参考させていただきまして、このある程度様式を確定させてですね。実際の調査の方、進めさせていただきたいというふうに思います。

それでは次に、次第の3のその他でございますけども、参考資料ということで、今年度のアドバイザー会議の開催予定を記載した資料となっております。

今年度は今日を含めて4回ということを考えてございまして次は9月、その次が11月、最後は1月ということになってございます。

一応現時点の予定ということでございますので、ご承知おきいただければというふうに思います。

他に全体としまして皆さんから何かご発言等ございますでしょうか。

(市長会 古舘アドバイザー (代理出席))

先ほどの資料の計画の中で盛岡花巻エリアのところにアイスアリーナって表記があるんですけども、今アイスリンク作って今総合アリーナっていうふうに名称変わってるんじゃないかと思いましたので。そこは盛岡市と施設の名称の確認をお願いしたい。

あとは広域防災拠点として、今盛岡に、新たな球場、きたぎんボールパークが非常にいい場所に、できてるわけなんですけども、新しい施設の活用っていうことも、この検討の中で考えるべきなのかまた、それはまた別ということなのか、その辺も市町村と意見交換してもいいのかなという気はしておりますけれども、以上です。

(防災課 高橋主任)

ありがとうございます。アリーナの方は、まさに今後調査に入った時に、私も気にはなっていて、施設の、それこそカルテを作って、その中で整理をしたいというようなところでございます。ありがとうございます。

あと、きたぎんボールパークの件も把握はしているんですけど、今回新たな施設の候補地としては、沿岸と県南に絞って調査をするんですけども。なので、今後の検討課題なのかなと今思いつつ、実際今回調査を進めてみて、例えば外さざるをえないかなみたいな施設があったら、ちょっとそういったところも、余力があったという、考えていこうかなと思っています。

(防災課 戸田総括課長)

他にございますでしょうか。

それではないようでしたら、以上で本日のアドバイザー会議終了したいと思います。

次回のアドバイザー会議につきましては先ほど資料に記載してます通り9月を予定でございまして。

日程調整につきましては改めてご連絡を差し上げたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

それでは本日の会議は閉会いたします本日はどうもありがとうございました。ありがとうございました。